

難波大道

大和川・今池遺跡

発掘調査資料 その6



1980. 11

大和川・今池遺跡調査会

はじめに

大和川・今池遺跡は、20万m²以上に広がる弥生～古墳時代を中心とした集落・水田址であることが調査成果として得ている。

難波大道検出地区は、第7—1地区の一部と第6、7地区間の道路下で検出し昭和55年11月1日から同年11月15日にかけて発掘調査を実施した。発掘調査には、大阪府教育委員会・石神 怡、堺市教育委員会・奥田 豊の指導の下に、堺市教育委員会・技術職員・森村健一が担当した。

又、発掘調査に際しては、大阪府教育委員会、大阪市文化財協会、関西大学教授・網干善教氏、立命館大学教授・日下雅義氏、堺女子短期大学教授・嶋田 晓氏、大阪府南部下水道事務所、堺市下水道部、松原市下水道部、今池共同企業体、ならびに地元各位から多大なる御教示、御協力を得た。

この小冊子は、速報としての性格のもので別の機会に本報告書が作製する。尚、小冊子は、森村が編集、執筆した。

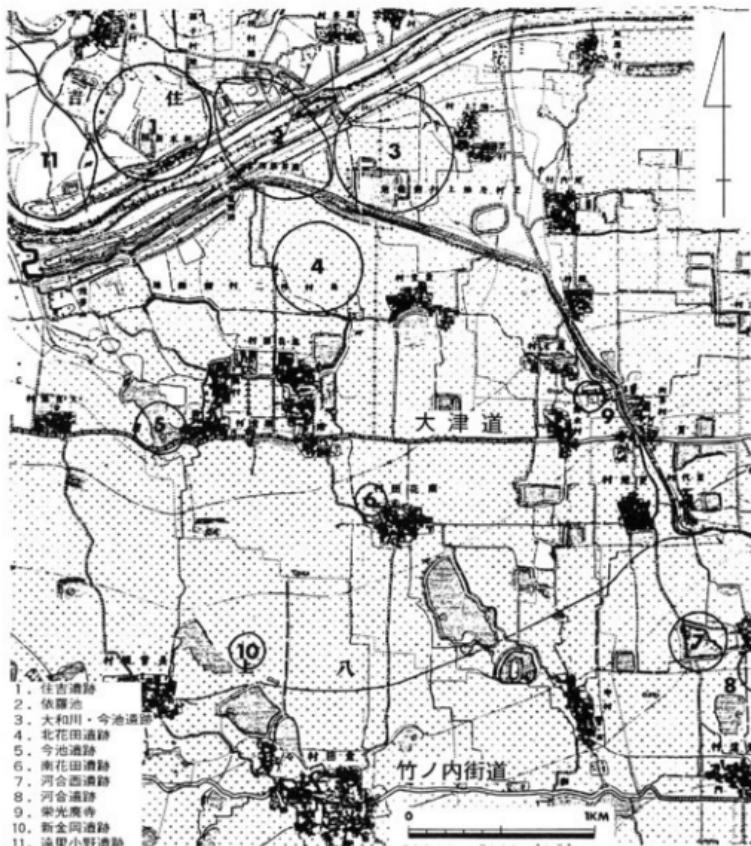


発掘調査風景

位置と環境

この遺跡は、行政区域上、大阪府堺市常盤町と松原市天美西町にあたる。遺跡の西半分は、洪積段丘中位の東縁辺に、東半分は、旧西除川の氾濫源内となっていた。特に、本遺跡内には、旧西除川の支流である幅数mの小川が北流している。これらの地質構造と遺構の性格が相関関係を組み立てている。今までの数次にわたる発掘調査の結果、段丘上には集落跡が、氾濫源内に位置するところからは水田址が確認されている。

周辺遺跡として弥生時代から古墳時代にかけて生活を営んでいた住吉遺跡、が本遺跡の西側に所在する。南側では、弥生時代～中世にまたがる複合遺跡として北花田遺跡が知ら



大和川・今池遺跡及び周辺遺跡

れているが顕著な遺構は検出されていない。西除川をさかのぼると弥生時代の石鑑、弥生時代・中後期の土器に共伴して1×2間の高床式倉庫を確認した河合遺跡がある。

13世紀後半から14世紀にかけて寺院址と関係したと思われる新金岡遺跡が報告されている。又、当遺跡にも現存する条里制遺構の基準となった長尾街道や、竹之内街道が東西に走っている。

狭間川をダム状に堰き止めた新掘町の今池遺跡からは、古墳時代中期において小河川に人力を加えて管理した、水盡祭祀を発掘調査した。

記紀にみられる依羅池が大利川・今池遺跡に隣接している事が絵図や考古学的な調査によって確認された。尚、数ヶ所の遺跡はすべて洪積段丘中位のくぼ地を北流する小河川に隣接している事に注目される。

調査成績

条里制施行以後の幾多に重なる水田開発行為から判断して決して良好な保存状態とはいえない。

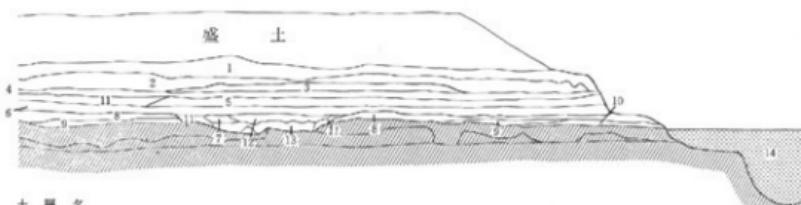
大道西側溝は、全長40mにわたり検出したが中央部で一端、断絶していた。溝幅は、0.7~1.5mと不定であるが平均1.2m前後であったことが復元される。南側層位は、耕作土、床土褐色粘質土(10Y R 1/4)・暗褐色粘質土(10Y R 3/4)・地山であるにぶい黄橙色粘質土(10Y R 1/4)から堆積する基準層位であった。深さ20cm前後の溝中には、大別して、暗褐色粘質土と灰黃褐色粘質土(10Y R 1/4)が流れ込み、下層のそれは、ヘドロの性格を示す。北側溝付近での土層は、南側と大差ないが地山上に灰黃褐色シルト層(10Y R 1/2)がベルト層位を形成し道路建設時を残存させる。尚、溝の掘方は、シルト層から及び褐色粘質土(7.5Y R 1/4)が基礎となる埋土であった。溝・上辺は、O.P=9.70m(中央)、溝底(南側)はO.P=9.80m、(北側)は、O.P=9.40mを計測した。東側溝は、幅1.4~1.8mの溝上には西側溝上の層位に褐色粘質土(10Y R 1/4)が追加されるもので地山の低下に伴う現象である。溝中の埋土は、褐色粘質土を基調としたものが上層を占め下層は、流れ込みと考えられるレンズ又は、ブロック状の堆積が見受けられた。又、東西側溝底部は、地山の影響を受けて凸凹が顕著である。溝底高は、北側でO.P=9.50mを計り北流していた。

出土遺物としては、古墳時代の土師器・須恵器の流入はあるものの陶邑編年Ⅲ-1・2型式の杯身を検出している。検出された両側溝から復元して道路幅は18m(60尺)でその主軸方向は、難波宮中軸線上に符合する。第6地区、東側溝の延長上に長さ18m、幅0.8m検出した。深さ0.3m前後の溝中には、暗褐色粘質土(7.5Y R 1/4)と黒褐色粘質土(7.5Y R 3/4)・地山がブロックで混入する。

1978年発掘調査した溝-6・7・8は、西側溝の一部で長さ10m、幅0.45mを第1地区で検出した。深さは、0.1m前後と極めて浅い。



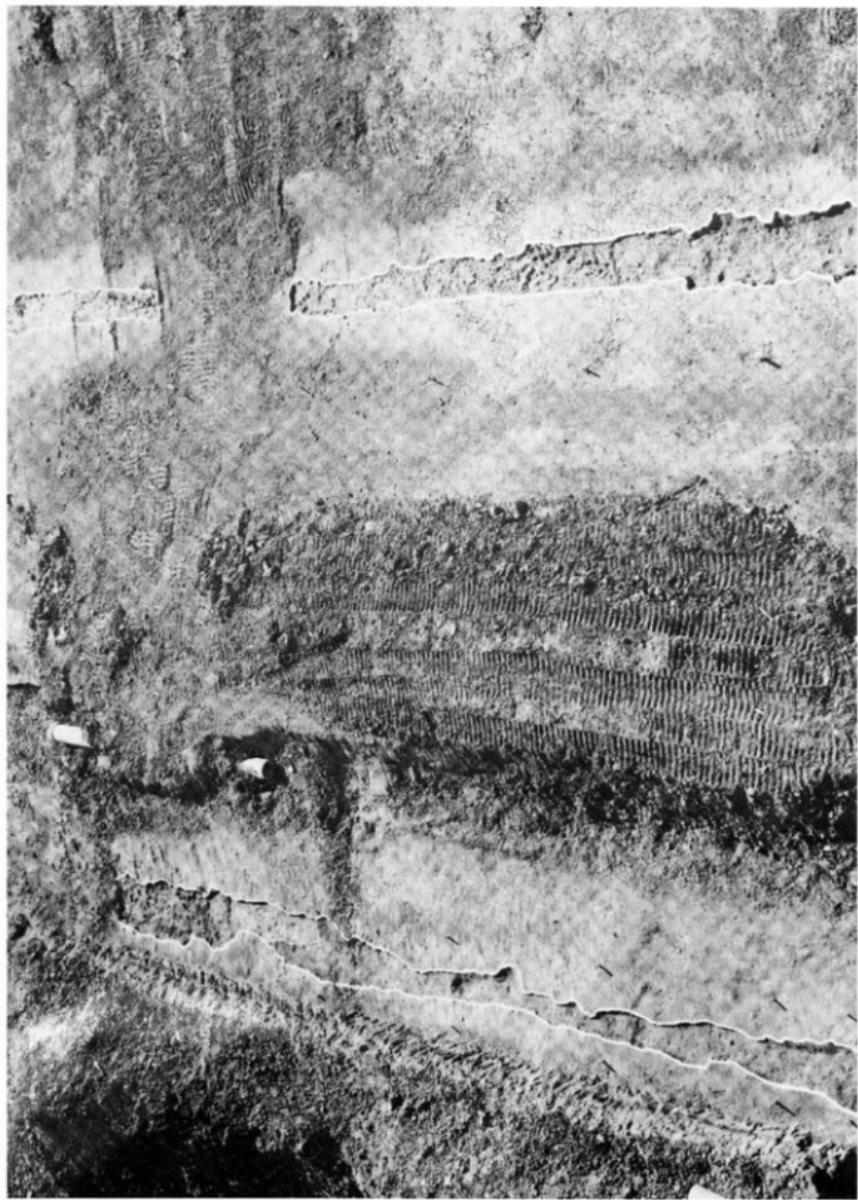
大和川・今池遺跡から難波宮へ (S55. 1. 11)



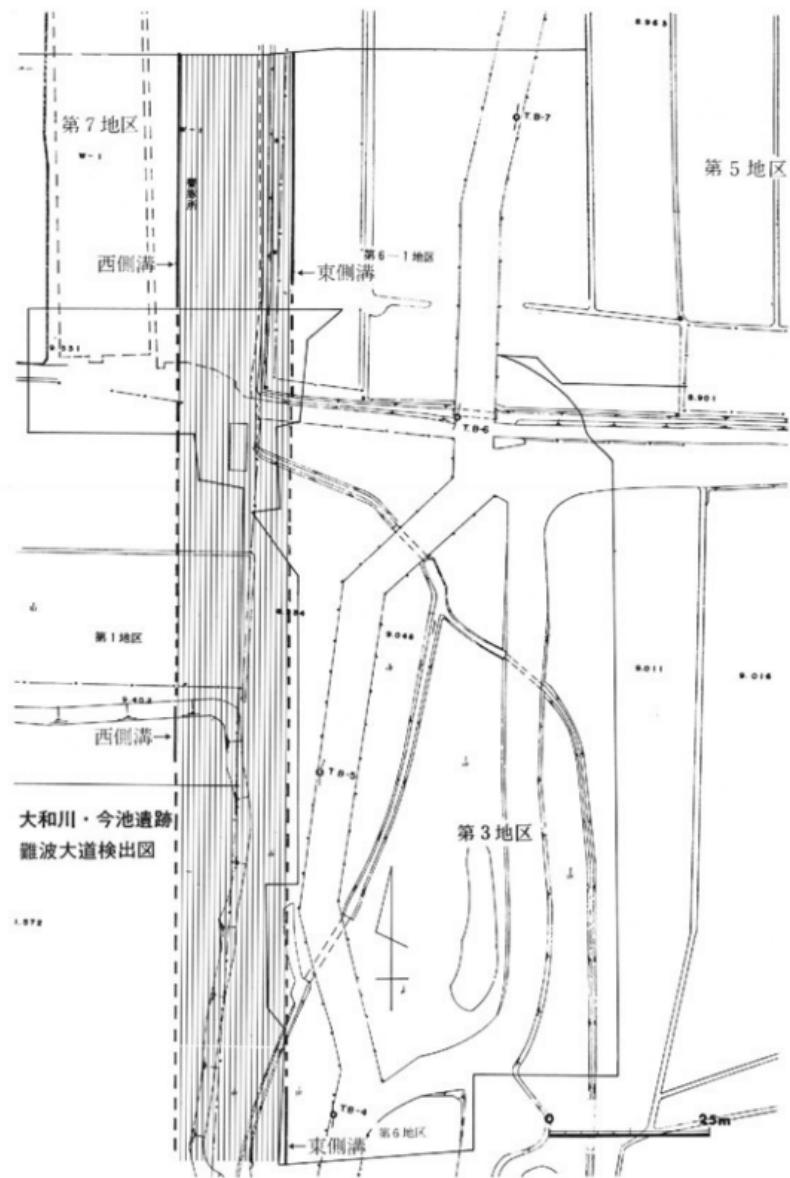
土層名

- | | | |
|-------------------------|---------------------------|------------------|
| 1. 耕作土・オリーブ黒色土 | 6. ⑤より黒味 | 11. ⑥より黒味帯びてやや粘質 |
| 2. 黄褐色土 (床土) 10YR 4/2 | 7. ⑦より黄味 | 12. 底褐色粘質土やや粘質 |
| 3. 暗浜黄色土 (床土) 2.5YR 4/2 | 8. 底黃褐色粘質土 10YR 4/2 | 13. ⑫に黒味帯びてやや粘質 |
| 4. にぶり黄褐色粘質土 10YR 4/2 | 9. 黄褐色粘質土 2.5YR 4/2やや8層混入 | 14. 排水溝 (ヘドロ) |
| 5. 褐色粘質土 10YR 4/2 | 10. ⑨より⑧を多く含む | |

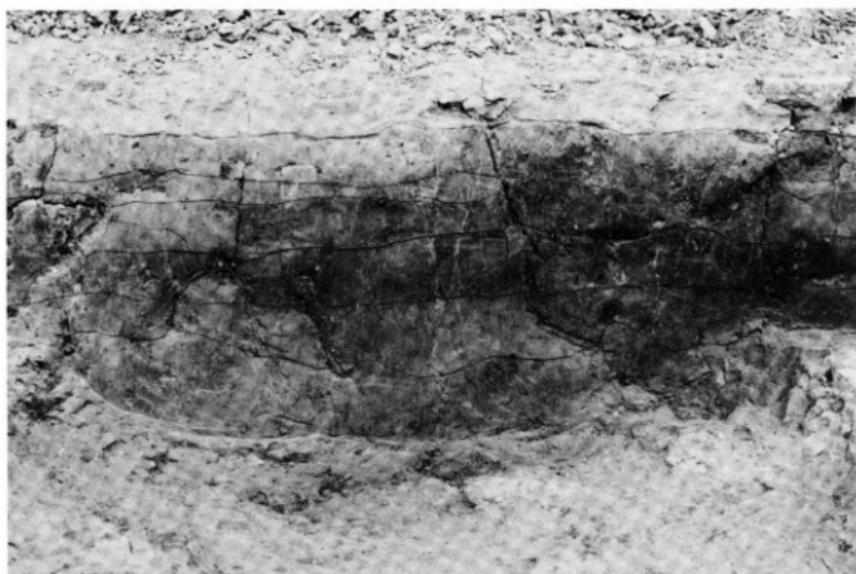
東側溝第3トレンチ土層断面図



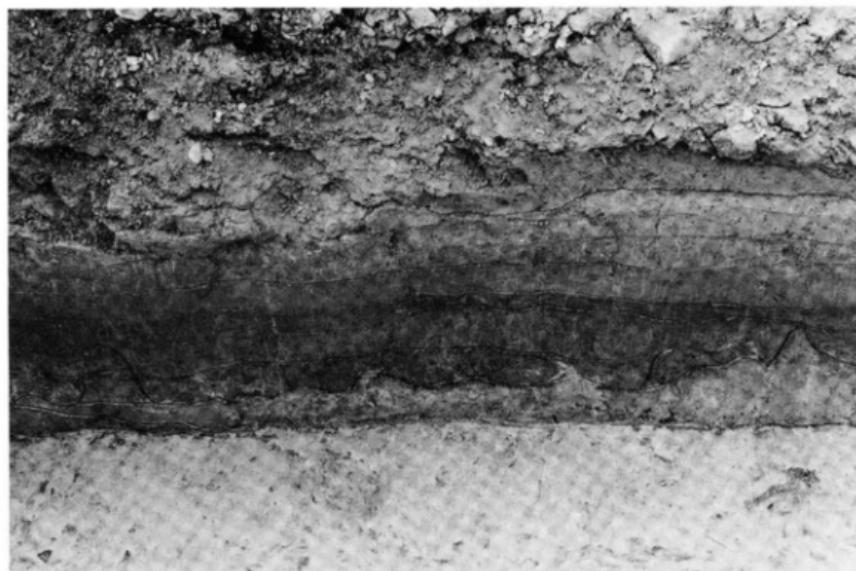
難波大道検出状態（全体）



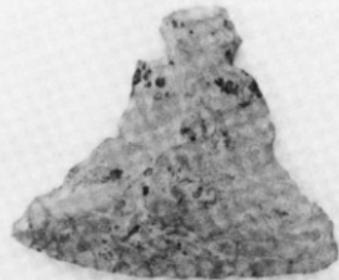
大和川・今池遺跡難波大道検出図



西侧溝断面



東側溝断面



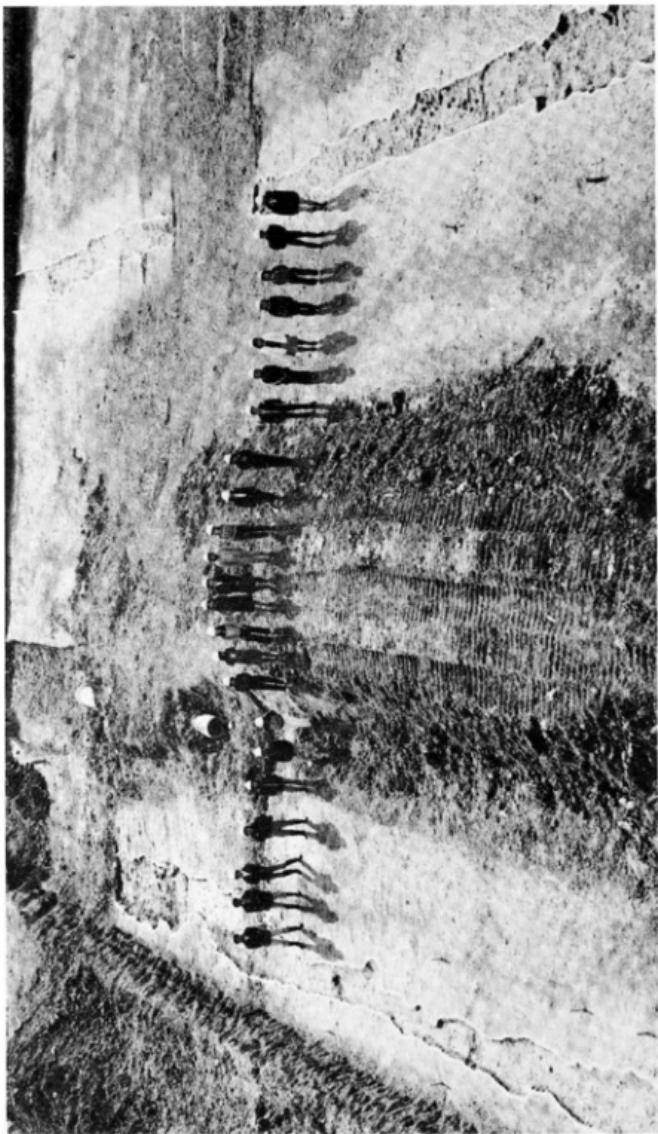
上・左 東側溝内・須恵器出土状態

上・右 石匙出土状態

下 石器



東側溝内出土須恵器



ま　と　め

「日本書紀」仁徳14年条、推古21年11月条や岸俊男氏の古道復元から大和川・今池遺跡を通過する可能性は以前から考えられていた。

従来の難波宮の発掘調査と今回検出した両側溝から推察して難波大道を否定する事象を提示することの方が困難である。本遺跡で検出された大道幅は、18mで両側溝、幅1.2~1.8m、深さ20~30cmを計測し本遺跡内では、大道170mまで復元出来た。今後、大阪市内、大津道付近での発掘調査に期待したい。



難波大道復元図

難波大道

—大和川・今池遺跡—

発掘調査資料 その6

発 行 大和川・今池遺跡調査会

発行年月日 1980.11

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所